調査技術の検討

（和歌山）　西田春彦

農民の社会的態度の研究が、村落構造の研究と共にだんだん行われるようになつてきましたが、態度測定の技術の検討の方に私はおも に力をいれている次第です。近頃よく紹介されている潜在構造分析も実際に使いますと大変うまく予想通り行くときもありますが、Cross Product[ij]　の値がマイナスになつたり latent Marginals of Items が1以上あるいはマイナスになつたりして色々研究して行く必要が多く生じます。それと共に数値に対する社会学的解釈の下し方にも検討が必要で、こうした資料についての情報の交換が望まれます。Cross Product がマイナスの時の解については池田一貞氏が「和歌山大学学芸学部紀要」（来春刊行予定）に発表するはずです。現在はこうした資料をも得るため和歌山県下で中小学校教員に標本抽出で調査をしています。こうした調査技術の検討について諸方面からいろいろ情報をいただければ幸と思つています。